

学校関係者評価委員会資料

I 令和3年度重点目標と学校評価結果の関連

- ・5ポイント以上変動のあった項目や高評価項目を中心にまとめました（カッコ内±は前年度比）。
- ・5（職員は10）ポイント以上の↑は_____, ↓は_____で示しました。

- ◆ **地域に根ざした学校づくり** 《保護者》85%(-6) 《生徒》88%(+10) 《職員》100%(+6)
- ◆ **学校生活が充実** 《保護者》93%(+1) 《生徒》92%(+2) 《職員》100%(+3)
- **何を学ぶか** 基礎・基本の知識技能の習得 探究的活動 主体的な特別活動・部活動
 - 学ぶ意欲を引き出す授業 《保護者》86%(+3) 《生徒》89%(+5) 《職員》100%(+3)
 - 国際理解教育による異文化理解 《生徒》80%(+10) 《職員》83%(+5)
 - 進路に適した教育課程 《生徒》93%(+3) 《職員》97%(+9)
 - 基本的生活習慣確立の指導 《保護者》90%(-1) 《生徒》90%(-1) 《職員》67%(-24)
 - 活発な部活動 《保護者》91%(-3) 《生徒》94%(+3) 《職員》81%(-10)
 - 活発な生徒会活動 《保護者》91%(-1) 《生徒》90%(+2) 《職員》86%(-11)
 - 有意義な学校行事 《保護者》84%(-3) 《生徒》88%(+2) 《職員》100%(+6)
- **どのように学ぶか** 主体的対話的で深い学び 社会に開かれた教育課程 本物に触れる機会
 - 進路目標明確化への適切な指導 《保護者》86%(±0) 《生徒》93%(+4) 《職員》83%(-11)
 - 進路目標実現に役立つ課外講習 《生徒》88%(+2) 《職員》70%(-18)
- **何が身につくか** 学習成果の看取り 自己評価・成長と課題の振り返り
 - シラバス(学習の手引き)の活用 《保護者》84%(-3) 《生徒》79%(+1) 《職員》86%(+2)
 - 役に立つ進路の手引き 《保護者》80%(新) 《生徒》86%(+5) 《職員》81%(-3)
- **地域・保護者との協働** 地域協働事業 学校・授業公開 積極的な視察・他校交流
 - メール等による適切な情報提供 《保護者》92%(+4) 《生徒》95%(+2) 《職員》97%(+3)
- **通いたくなる・働きたくなる環境づくり** 通いたくなる学校づくり 働きがいのある職場づくり
 - いじめの方針共有・早期発見 《保護者》64%(-9) 《生徒》85%(+6) 《職員》95%(-2)
 - ケガや病気への適切な対応 《保護者》95%(+3) 《生徒》95%(+5) 《職員》97%(-3)
 - 教育相談体制の確立 《保護者》94%(±0) 《生徒》93%(±0) 《職員》97%(±0)
- **学びの土壌づくり** 安全・安心の土壌 多様性の土壌 本音の土壌 地域への橋渡し
 - 災害時の避難・連絡方法の周知 《保護者》84%(-4) 《生徒》94%(+9) 《職員》97%(-3)
 - 清掃や環境美化の指導 《生徒》89%(+6) 《職員》78%(-3)
 - 施設・設備の整備 《保護者》86%(-3) 《生徒》85%(+8) 《職員》80%(-17)

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

【総務関係：保護者】

- Q 1 学校として地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる
 Q 2 お子様の学校生活は充実している
 Q 3 保護者に対して、災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている
 Q 4 保護者に対して、学校便り、メール配信などによって、学校の情報は適切に伝えられている

【総務関係：生徒】

- Q 1 学校として、地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる
 Q 2 自分にとって、学校生活は充実している
 Q 3 生徒に対して、災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている
 Q 4 保護者に対して、学校便り、メール配信などによって、学校の情報は適切に伝えられている

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
総務関係	①特色ある学校づくりについて 保85 生88 職100	A	保護者(82⇒91⇒85%), 生徒(69⇒78⇒88%), 職員(93⇒94⇒100%)と推移しており, 生徒・職員の数値が年々上昇している。文部科学省「地域協働事業」の取組が3年目を迎え, 生徒が地域に出て学ぶ機会が充実していること, そこの学びが生徒を育てていること等が評価されたものと捉えている。	A	A
	②学校生活の充実について 保93 生92 職100	A	保護者(94⇒92⇒93%), 生徒(90⇒91⇒92%), 職員(100⇒97⇒100%)と高い評価を維持している。この数値が90を超える学校は県内でも数校しかない。本校が目指す「自己決定する力・学び続ける力・他者と関わる力」の育成や, 本校が大切にしている「学びの土壌づくり」が広く支持されたものと捉えている。	A	A
	③災害・非常時の対応について 保84 生94 職97	A	回答1・2の割合は, 保護者[84%], 生徒[94%], 職員[97%]であった。本年度も新型コロナウイルス感染症により, 避難訓練, 防災体験学習も縮小化せざるを得ない状況であったが, 緊急時の対応等はある程度理解を得られたと思われる。 新型コロナウイルス終息の折には, 通常の体制を改めて再確認し, 生徒の安全確保に努めたい。	A	A
	④学校情報の伝達について 保92 生95 職97	A	回答1・2の割合は, 保護者[92%], 生徒[95%], 職員[97%]であった。今後もスタディサプリ, 学校メール, 石巻西高実況中継やHP, PTA広報誌等で学校の情報を伝え, 発信していきたい。	A	A
学校関係評価者による意見		特になし			

【学習指導：保護者】

- Q 5 お子様の学ぶ意欲を引き出し、学力を身に付けられるような授業が行われている
 Q 6 科目選択や学習の取り組み、評価規定の確認に関して、シラバス（学習の手引き）が活用されている

【学習指導：生徒】

- Q 5 生徒にとって、学ぶ意欲を引き出し、学力を身に付けられるような授業が行われている
 Q 6 外部講師の講演や他国の人々との交流などの国際理解教育を通して、異文化理解が深まっている
 Q 7 科目選択や学習の取り組み、評価規定の確認に関して、シラバス（学習の手引き）が活用されている
 Q 8 本校の教育課程や選択科目は自分の進路に適している

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切	改善策の適切さ
学習指導関係	①学ぶ意欲を引き出す授業について 保86 生89 職100	A	保護者（78%→83%→86%）、生徒（70%→84%→89%）、職員（95%→97%→100%）といずれも高い水準である。本校がこれまで取り組んできた「ともに学び合い、自らの考えを表現させる授業づくりの研究」の成果が評価されているのではないかと。また、「総合的な探究の時間」を核とする学習活動における、「学びの土壌づくり」も肯定的に捉えられていると思われる。	A	A
	②国際理解教育について 保 生80 職83	A	生徒（59%→70%→80%）、職員（76%→78%→83%）と着実に向上してきている。コロナ禍で難しい状況ながらも講演会を開催し、ユニクロ・GUの「届けよう。服のチカラ」プロジェクト等の取り組みが評価されていると思われる。	A	A
	③シラバスの活用について 保84 生79 職86	B	保護者（78%→87%→84%）、生徒（63%→78%→79%）、職員（86%→84%→86%）と特に生徒の評価が向上してきている。新学習指導要領に合わせてシラバスの様式をリニューアルし、さらに活用しやすいものを目指したい。	A	A
	④教育課程・選択科目について 保 生93 職97	A	生徒（63%→78%→93%）、職員（88%→88%→97%）と向上してきた。教育課程や選択科目に変更があったわけではないが、学校生活に対する生徒の満足度の向上が、教育課程やその他の評価も肯定的に捉える結果につながっているのではないかと。	A	A
学校関係評価者による意見		特になし			

【進路指導：保護者】

- Q 7 お子様の進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている
 Q 8 「進路の手引」はお子様の進路実現のために役立っている

【進路指導：生徒】

- Q 9 生徒にとって、進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている
 Q 10 課外講習は、生徒の進路希望実現のために役立っている
 Q 11 「進路の手引」は、進路希望実現のために役に立っている

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切	改善策の適切さ
進 導 関 係	①進路目標の明確化について 保86 生93 職83	B	全体への一斉指導の他、進路・分野別の小集団によるガイダンスなどできめ細かい指導ができたことが高い評価につながったと考えられる。次年度も業者等と連携をしてより質の高い進路行事を企画していきたい。	A	A
	②課外講習について 保 生88 職70	B	生徒の進路希望が多岐にわたるため、課外講習の実施に苦慮する先生方が多かったように感じる。知識習得のための教科課外はスタサブ動画に任せ、個別に指導が必要なものを対面で実施する形式にシフトしていく。公務員課外は継続して行う。	A	A
	③「進路の手引き」の活用について 保80 生86 職81	C	手引きの活用について、生徒へ周知するような機会を設定することができなかった。年度初めの集会等で活用法などを伝える機会を設定したい。	A	A
学校関係評価者による意見		特になし			

【生徒指導：保護者】

- Q 9 生徒に対して、挨拶やマナーなどの基本的生活習慣の確立に関する指導が行われている
 Q10 学校として、いじめの問題に対する取組方針が保護者と共有されている
 Q11 学校として、部活動は活発に行われている
 Q12 学校として、生徒会活動は活発に行われている
 Q13 お子様にとって、有意義な学校行事がある

【生徒指導：生徒】

- Q12 生徒にとって、挨拶やマナーなどの基本的生活習慣の確立に関する指導が行われている
 Q13 学校として、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる
 Q14 学校として、部活動は活発に行われている
 Q15 学校として、生徒会活動は活発に行われている
 Q16 自分にとって、有意義な学校行事がある
 Q17 交通ルール遵守の指導が行われている

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切	改善策の適切さ
生徒指導関係	①基本的生活習慣の確立について 保90 生90 職67	C	自覚を促す工夫，働きかけをより具体的に。（期間ごとに重点項目を決めて徹底するなど）	A	A
	②いじめ問題に対する早期発見と取り組みについて 保64 生85 職95	B	引き続き早期発見に取り組んでいく。	A	A
	③部活動の活発化について 保91 生94 職81	B	部活動の意義を考えさせる機会を設定。	A	A
	④生徒会活動の活発化について 保91 生90 職86	A	より多くの達成感を経験させることができるような場を設ける。	A	A
	⑤学校行事について 保84 生88 職100	A	より生徒が主体的に運営できるように指導する。	A	A
	⑥交通ルール遵守の指導について 保 生85 職92	A	自覚を促す指導の継続。	A	A
学校関係評価者による意見		特になし			

【保健厚生関係：保護者】

Q14 学校として、生徒のケガや病気に適切に対応し、健康の保持増進を図っている

Q15 生徒に対して、教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている

【保健厚生関係：生徒】

Q18 学校として、生徒のケガや病気に適切に対応し、健康の保持増進を図っている

Q19 生徒にとって、教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている

Q20 ゴミの分別処理・ゴミ拾いなどの校舎内外の清掃や環境美化の指導に取り組んでいる

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切	改善策の適切さ
保健厚生関係	①健康の保持増進について 保95 生95 職97	B	来室時の問診を丁寧に行うことで、生徒の心身の健康問題に対応しているが、生徒自身の行動の変容にまでつなげることがあまりできなかった。	A	A
	②教育相談について 保94 生93 職97	A	保健室の相談だけでなく、支援が必要な生徒へのカウンセリングについても適切に実施することができた。関係職員とも必要な情報共有ができた。	A	A
	③環境美化について 保 生89 職78	B	生徒の自主性を伸ばすことが課題である。また、長期休業前の大掃除を行事に組み込みたい。	A	A
学校関係評価者による意見		特になし			

【事務関係:保護者】

Q16 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている

【事務関係:生徒】

Q21 校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切	改善策の適切さ
事務関係	①施設・設備の整備について 保86 生85 職80	A	施設・設備の整備については、教職員による毎月の安全点検に加え、技師による日ごろの観察により不備の早期発見・修繕を行っています。 なお、技師による修繕が難しいものは、予算調整の上、対応する必要がある、規模によっては年単位で着手できない状況のため、立ち入り禁止など安全確保に努めているところですが、専門家の意見を取り入れて優先順位を設定することも検討していきたいと思います。	A	A
学校関係評価者による意見		特になし			

3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
① 学校生活の充実について	保護者(94⇒92⇒93%), 生徒(90⇒91⇒92%), 職員(100⇒97⇒100%)と高い評価を維持している。この項目は他の項目の総括ともいえる項目なので、各項目を点検、改善しながら今後も生徒が充実した学校生活が送れるような、環境づくりに努めていく必要がある。。
② 課外講習について	生徒側の評価は概ね良好といえる結果となったが、教員側の評価は下がっている。生徒の進路希望が多岐にわたるため、課外講習の実施に苦慮している状況がこの数字に表れているものと考え。知識習得のための教科課外はスタサプ動画を活用し、個別に指導が必要なものは対面で実施する形式にシフトするなど、教員の意見を集約しながら、生徒が進路目標を達成するための効果的な課外講習を検討していきたい。
③ いじめ問題に対する早期発見と取り組みについて	今年度は生徒の肯定的な評価が80%を越え、評価は徐々に上向き傾向である。生徒観察や生活状況調査等の取り組み、生徒指導研修会により生徒への浸透、教員の意識向上につながったものと考え。しかし、保護者の評価は昨年よりも下がっており、保護者への情報提供及び保護者との情報共有が課題といえる。今後、保護者への効果的な発信手段を検討し、連携した取り組みができる環境を整えていきたい。